

夏の甲子園、東北勢は8強に2校が入る活躍を見せたが上位校の壁は厚く、準々決勝で姿を消した。東北の人々は皆「今年も甲子園優勝旗は白河の関を越えられなかつたか」と肩を落とした。

東北勢は甲子園で優勝したことか一度もない。全く歯が立たないわけではない。第1回大会の秋田中学を皮切りに準優勝校は何校もあり、近年は12年連続で8強入りを果していいる。それでも不思議と優勝はできない。「甲子園の優勝旗は白河の関を越えられない」というジンクスは全国的にあまりにも有名である。

忘れ去られた白河関

白河関は福島県南部県境の白河市に存した古関であり奥



松平定信がこの地を関所跡と定めた旨の石碑

安時代の頃である。当時は蝦夷の南下や人、物資の往来を取り締まっていたようである。その後は機能を失ってしまい長らく場所さえ忘れ去られていた。そのため実際の場所は推定であるが、白河藩主松平定信が行った古文献や古考への聞き取り調査による断定および59（昭和34）年以降の発掘調査の結果により、東北本線白河駅から南方約12キロ、栃木県との県境からは約

詠み継がれてきた幻の古関

中世の遺構などがあるがそれほど大きな觀光施設とは言い難い。このようすに実際の白河関は機能を失った平安中期以後から現在に至るまで人知れぬまま長い間場所さえ忘れ去られていた。そのため実際の場所は推定であるが、白河藩主

象徴としての白河の関

多くの著名な歌人俳人が思い思いの作品を残している。白河の関という歌枕はみちのくという異世界への玄関口の象徴として重要な文化的役割を果してきたのである。

「甲子園の優勝旗は白河の関を越えられない」というジンクスを最初に言い始めたのは誰だったのか知るすべはないが、世間一般にこれほど受け入れられたのは白河の関が

うに思われる所以である。

ここ数年の甲子園東北勢の活躍を鑑みると、優勝旗が白河の関を越えるのは時間の問題であろう。もしかしたらジンクスは近い将来忘れ去られるかも知れない。しかしながら、重要な史跡としての「白河関」とみちのくの象徴としての「白河の関」は忘れ去

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第21回 福島県白河市



一般財団法人 日本不動産研究所

州3古関の一つとして名高い。関所といつても近世のものではなく実際に運用されていたのは7・8世紀、奈良平

3キロ北の地点にあつた。南北約300メートル、東西250メートルで面積58000m²、標高410メートルほどの丘陵が「白河関跡」として国の史跡に指定されている（白河市および白河観光物産協会ホームページ参照）。

現在、この丘陵には白河神社が鎮座しており、境内には松平定信によつて1800年に建立された古関蹟碑や発掘調査によって明らかになった因法師、西行、松尾芭蕉など

で忘れ去られることなく、能

でいた証拠にほかならない。そして近年、長い夏の終わりに東北の人々から白河の関がつぶやかれるのを聞くたび、白河の関は今現在の東北の人々にとっても東北人としてのアイデンティティを象徴するものの一つになつてゐるよ

うに思われる手形を描えて！
甲子園野球大会優勝
白河関越え通行手形を描えて！
■私たちは高校球児を応援します
白河之関鎮座 白河神社

現在に至るまで人知れずひつそりとたたずんできた白河関跡を伝える碑

白河神社は東北地方の高校に通行手形を出して高校球児を応援している



松平定信がこの地を関所跡と定めた旨の石碑

一方で白河の関は歌枕としても使われていた。歌枕とし

ての白河の関は現実の場所が失われていた期間も都人の間その象徴性を現代にまで保つ

動産鑑定士・浅川和徳